

研究・調査報告書

報告書番号	担当
180	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Cognitive performance in long-term abstinent alcoholic individuals. 長期間禁酒をしているアルコール依存症における認知活動能力	
執筆者	
Fein G, Torres J, Price LJ, Di Sclafani V.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 30(9): 1538-1544 (2006)	
キーワード	
アルコール依存症、認知機能、禁酒、空間情報処理能	
<p>要 旨</p> <p>背景：アルコール依存症で長期間の禁酒後の神経認知機能の回復について検証した研究は少ない。この研究は中年（平均 46.8 歳）の長期間禁酒しているアルコール依存症患者（LTAA）の認知機能について検証した。平均 6.7 年間禁酒している 25 人の LTAA 男性と 23 人の LTAA 女性、そして同数の性別、年齢の正常対照者（NC）で、神経認知指標と年齢、禁酒の期間、アルコール使用量、問題飲酒の家族歴密度との関連について解析、比較した。</p> <p>方法： 長期間禁酒アルコール依存症患者と NC で包括的神経心理検査を行った。実行能力は以下の 9 つの分野について測定した：抽象/認知柔軟性、注意、聴覚作業記憶、即時記憶、遅延記憶、精神運動機能、応答時間、空間情報処理能力、言語能力。</p> <p>結果： 長期間禁酒アルコール依存症患者は空間情報処理能の分野を除いて、NC と同様の実行能力を示した。空間情報処理能での結果は多重比較の問題があるので注意して説明されるべきであろう。しかし、空間情報処理能での障害は禁酒しているアルコール依存症患者でしばしば報告される障害である。認知機能測定結果は禁酒の期間、摂取しているアルコールの種類、家族歴との関連性は認められなかった。</p> <p>結論： 長期間の禁酒によって、遅延する空間情報処理能の障害を除いて、アルコール依存症に関連した認知機能の殆どの障害は回復する。</p>	